

【概要版】テストイベントを活用した都における検証の結果について(令和元年9月30日時点)

検証項目等	検証概要	検証結果及び今後の対応	検証結果及び今後の対応
暑さ対策 <ul style="list-style-type: none"> ビーチバレーホール ボート トライアスロン ホッケー マラソン 	<p>○ハード対策</p> <ul style="list-style-type: none"> 休憩所(テント、ウォーターサーバー等)、極微細ミスト、散水チューブ等の設置 <p>○ソフト対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ネッククーラー、うちわ、扇子等の配布 <p>○医療・救護(救護所)</p> <p>【コンテナ型(ビーチバレーホール)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 医師・看護師配置、簡易ベッド 【医療用車両(マラソン)】 路上競技の沿道等での救護における東京DMATカーの活用 	<p>【検証結果】</p> <p>○ハード対策</p> <ul style="list-style-type: none"> テントによる日除けと送風機等を組み合わせた場合は、暑さ指数の低減効果が高く、利用者からも好評 <p>○ソフト対策</p> <ul style="list-style-type: none"> 「体を冷やす」グッズ(ネッククーラー等)は概ね高い評価 <p>○医療・救護(救護所)</p> <ul style="list-style-type: none"> ビーチバレーホールにおける救護所利用実績7名のうち、熱中症疑いの患者4名(入場者数5日間計約5200人)。大会時のラストマイル距離や観客数、競技日程等を勘案すると、熱中症疑いの患者が同時複数発生の可能性 交通規制下では救急搬送には工夫が必要 救護所の表示が分かりにくいという指摘あり <p>【今後の対応】</p> <p>○ハード対策</p> <ul style="list-style-type: none"> 重点箇所においてテントによる日陰を十分に確保、送風機等と組合せた効果的な対策を実施 (重点箇所:距離の長いラストマイルやP S A(歩行者スクリーニングエリア)前等) <p>○ソフト対策</p> <ul style="list-style-type: none"> 「体を冷やす」「風を当てる」グッズを配布し、情報提供ツールとしても活用 <p>○医療・救護(救護所)</p> <ul style="list-style-type: none"> 想定される観客数やラストマイルの距離など各会場のリスク分析とテストイベントの結果を踏まえ、より効果的な救護所の設置方法を検討 体調不良者を早期に発見できる体制、救護所から近隣医療機関への患者搬送動線など、適切な救護体制を検討 救護所の設置場所の周知方法や分かりやすい救護所の表示について検討 	 <p>▲テント(遮光遮熱性シート)+極微細ミスト</p>  <p>▲ウォーターサーバー</p>  <p>▲ネッククーラー</p>  <p>▲コンテナ型救護所(ビーチバレー)</p>  <p>▲東京DMATカー(マラソン)</p>  <p>▲テント(マラソン)</p>
シティキャスト <ul style="list-style-type: none"> ビーチバレーホール トライアスロン ホッケー 	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアリーダー経験のあるシティキャスト応募者が実際に活動 活動人数 50人程度(3競技合計) ※1回当たり、30分・45分・60分と活動時間を設定 	<p>【検証結果】(活動者へのアンケート等)</p> <p>○活動時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ビーチバレーでは炎天下の屋外の活動であったが、60分が適切という意見が多い一方で、30分や45分程度が適切との意見もあり <p>○かぶるタイプの傘(希望者のみ着用)</p> <ul style="list-style-type: none"> 風に弱いという意見があるものの、暑さ対策としては概ね良好 ハンズフリーとなるため、活動しやすい。 人目を引くため、シティキャストであることが分かりやすい。 見た目が気になる。 <p>【今後の対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 連続する活動時間については最大1時間とし、当日の天候や活動場所への移動距離、本人の体力などを踏まえ、現場のリーダーが途中で切り上げて休憩させる判断ができるよう、マニュアル等を作成 かぶるタイプの傘については、大会時に希望するシティキャストへの提供を検討 	  <p>▲シティキャストの活動の様子</p>

【概要版】テストイベントを活用した都における検証の結果について(令和元年9月30日時点)

検証項目等	検証概要	検証結果及び今後の対応	
観客輸送 ・ボート	<ul style="list-style-type: none"> ○バス輸送 ・観客のバス輸送を試行 ○観客誘導 ・バス乗降場内や、駅から乗降場までの観客誘導を試行 ・駅構内におけるスムーズな旅客誘導を検証 	<p>【検証結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海の森水上競技場へのバス輸送観客数 5日間計約5,500人 ・天候の影響により、競技時間の前倒しが発生(競技3日目・4日目) →観客の退場動向に応じ、回送車の活用により運行ダイヤを変更する等の対応を行い、観客の滞留を解消 <p>【今後の対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大会時観客規模(収容16,000人)を踏まえ、悪天候等による競技時間変更も想定したバス輸送計画を準備 ・競技時間の変更等が生じた場合、乗降場での観客の滞留をコントロールする運用等を組織委員会などと連携して検討 	 <p>▲バス輸送</p>  <p>▲バス乗降所</p>
アクセシビリティ ・ボート	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者(※)と最寄駅から会場内まで移動(バス乗降含む) ・会場内外の動線や観客席、トイレのアクセシビリティを確認 <p>※車いす使用者(4名) 視覚障害者(1名) 聴覚障害者(1名)</p>	<p>【検証結果】 (障害者からの主な意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○車いす使用者 <ul style="list-style-type: none"> ・シャトルバスは、1台で乗車できる車いす台数が限られていることから、グループが分かれてしまう場合の案内方法の検討が必要 ○視覚障害者 <ul style="list-style-type: none"> ・ルートの分岐点、交差点などの危険箇所、休憩所等について、声による案内が必要 ○聴覚障害者 <ul style="list-style-type: none"> ・声の案内が聞こえないため、各会場のルート上の分岐点には案内サインの設置が必要 <p>【今後の対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループが分かれた場合、「○分後のバスに乗車できる」等の案内を行い、会場側で待合わせできる運用を検討 ・ルート分岐点等において、声かけ、案内サイン設置や手持ちサインなど、聴覚と視覚に訴える案内を実施 	 <p>▲スタッフによる車いす乗車サポート</p>  <p>▲車いすの固定(バス車内)</p>
都市オペレーションセンター(COC) ・ビーチホール ・ボート ・マラソン ・ウエイティング 他	<ul style="list-style-type: none"> ・連携体制を検証(COC・シティキャスト・救護所・会場内・輸送センター等) ・シミュレーションによる事案発生時の対応手順を検証 	<p>【検証結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同時発生事案の対応中に、現場で起きた情報を詳細にデータベース入力することは限界がある。 ・事案への即時対応のために、本部で把握している情報(大会運営情報、交通情報、気象予測等)と現場の観客等の情報を双方でリアルタイムに共有することが必要 <p>【今後の対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本部等が必要とする情報を明確化し、本部と現場で共有する情報を選別 ・必要な情報を確実に伝達する運用の工夫 ・本部と現場での双方向のコミュニケーション(報告・指示・情報共有等)が円滑となる運用を検証 ・雑踏事故防止に向け、SNS等を通じた観客への混雑情報の提供方法を検討 	 <p>▲熱中症患者の搬送(訓練)</p>  <p>▲COC支部(訓練)</p>

Wave2、3における試行検証の視点

- Wave1では、暑さ対策や医療・救護、シティキャスト、観客輸送など、基本的なオペレーションを中心に試行検証を実施
- Wave2、3では屋内競技中心となり、大会準備の進展に伴い、新規・改修施設も含めて、より本番を意識した実践的な検証を実施
- ⇒ ・検証事項の詳細化(外国人や障害者など配慮が必要な観客へのきめ細かい対応、台風や災害などを想定した訓練等)
- ・大会時に近い環境(体制やシステムなど)における関係者間の連携体制等